

リ サ イ ク ル 計 画 書（積算段階）

工事担当者が作成し、設計書に添付

1. 事業（工事）概要

発 注 機 関 名	茂原市	工 事 名	市道 1 級 1 2 号線 交通安全施設等整備工事（国府関）その 2
施 工 場 所	茂原市国府関地先	工 期（ 予 定 ）	契約日の翌日から令和9年3月3日迄
工 事 概 要 等	工事延長：L=190.0m 表層 A=1314.0 プレキャストU型側溝 L=196.0m ボックス型ヒューム管 L=71.0m 集水桝 N=13箇所		

2. 建設資材利用計画

建 設 資 材	① 利 用 量	② 現場内利用量	③ 再生材利用量	④ 新材利用量	⑤ 再生資源利用率 (②+③) / ①×100	備 考
土 砂	382 地山m3	308 地山m3	地山m3	74 地山m3	80.6 %	
砕 石	926.3 トン	トン	926.3 トン	トン	100.0 %	
アスファルト・コンクリート	135.9 トン	トン	135.9 トン	0.0 トン	100.0 %	
	トン	トン	トン	トン	%	

※ アスファルト・コンクリートの欄には、車道排水性及び歩道透水性舗装用アスファルト混合物の利用量は含めないものとする。

※ 最下段には、その他の再生資材を使用する場合に記入する。

3. 建設副産物搬出計画

建設副産物の種類	⑥ 発 生 量	⑦現場内利用量 (減量化量)	⑧他工事への 搬出量	⑨再資源化施設 への搬出量	⑩ストックヤードへの搬出量	⑪現場内利用率 (⑦/⑥) × 100	⑫有効利用率 (⑦+⑧+⑨+⑩) / ⑥×100	備 考
建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
第1種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
第2種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
第3種 建設発生土	496 地山m3	308 地山m3	0 地山m3	0 地山m3	188 地山m3	62.1 %	100.0 %	
第4種 建設発生土	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
泥土（浚渫土）	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	地山m3	%	%	
合 計	496 地山m3	308 地山m3	0 地山m3	0 地山m3	188 地山m3	62.1 %	100.0 %	
コンクリート塊	29.4 トン	0.0 トン	0.0 トン	29.4 トン	0 トン	0.0 %	100.0 %	
アスファルト・コンクリート塊	97.5 トン	0.0 トン	0.0 トン	97.5 トン	0 トン	0.0 %	100.0 %	
建設汚泥	トン	トン	トン	トン	—	%	%	
建設発生木材	トン	トン	トン	トン	—	%	%	
建設混合廃棄物	トン	トン	トン	トン	—	%	%	

※ 建設発生土の区分（既存資料から判断するものとする）

①第1種建設発生土・・・砂、礫及びこれらに準ずるもの。④第4種建設発生土・・・粘性土及びこれらに準ずるもの。（第3種建設発生土を除く）

②第2種建設発生土・・・砂質土、礫質土及びこれらに準ずるもの。⑤泥土（浚渫土）・・・浚渫土のうち概ねq c 2以下のもの。

③第3種建設発生土・・・通常の施工性が確保される粘性土及びこれらに準ずるもの。

※ 建設発生木材の中には、伐開除根材及び剪定材を含む。

※ 建設汚泥、建設発生木材及び建設混合廃棄物の「⑦現場内利用」の欄には、上段に現場内利用、下段に現場内での減量化量を記入する。

※ 「⑩ストックヤードへの搬出量」には、他工事に再利用されることが予定される場合のみ記入する。

※ 「他工事」には、他機関の公共工事や民間工事も含む。